



寄りてこそそれかとも
見ぬ黄昏れにほのぼの
見つる花の夕顔

花を折りに行った隨身
に持たせてやった。夕
顔の花の家の人源氏
を知らなかつたが、隣
の家の主人筋らしい貴
人はそれらしく思われ
て贈った歌に、返事の
ないのにきまり悪さを
感じていたところへ、
わざわざ使いに返歌を
持たせてよこされたの
で、

■ 参考

※黄昏れ【たそがれ】

(青空文庫のフリガナより)